

慶雲寺報

◎NEWS

* 本堂内 畳替え

日焼けに伴う色あせ、雨漏りによる変色、畳床の傷みによる窪み等々が目につき、住職就任以降、ずっと気になっておりました本堂内の畳。

昨年、屋根替えにご理解をいただき、雨漏りの心配が無くなったのを機に、本年秋季彼岸会に合わせ、堂内の畳入れ替えを行いました。



古い畳を上げてみるまで、床板の傷みも気になっておりましたが、幸い目立った痛みもなく、新しい畳が敷き詰められた堂内が明るく感じられるようになりました。

既にご法事等でご覧になられた方もおられますが、来たる施食会には多くの皆様にお参りいただき、是非ご覧いただきたく存じます。

☆こんな時どうすれば？☆

赤なのか黒なのか？はたまた書式はどうなのか？お供えされるのし袋の体裁の質問を受けることがございます。

本尊様にお供えする 金封の上書き について

ご法事やご葬儀、その他お参りの際のご本尊様へのお供えは、黒もしくは無地のしを用い、上書きは【御布施】と記すのが一番万能です。どのようなケースでも間違いはありません。下半分には施主さまの「フルネーム」もしくは「家」と記します。

右記を基本線としながら、赤のしを用いる場合もあります。（注 赤でなくてはいけないというわけではありません） 参考までにどうぞ...

年頭行事等...【御年賀】と記します。

石塔開眼等...【開眼供養】と記します。

【お盆礼】に赤のしを使うお宅もあります。

◎平成二十八年度

初徳米献供功德主

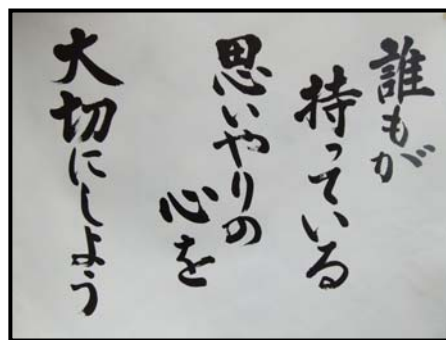
為 当在先祖代々報恩感謝

- 中里 千司 殿(天王原)
- 渡辺 美郎 殿(北ノ内)
- 田中 繁 殿(町田)
- 斎藤 泰久 殿(新谷) 十月三十日現在
- 早瀬 光行 殿(塚原) 献供順

ご先祖様から受け継いだ田んぼで取れた新米をお供えいただきました。心を込めて炊き上げ、功德主の皆様の想いを込めて、本尊様に朝のお仏餉としてお供えいたしました。

◎伝道掲示板から

「思いやりの心」とは、独り善がりではなく、相手の立場に立つてうれしい時はともに喜び、悲しい時には寄り添って共に悲しむ心の保ち方を指します。教えて申せば、慈悲または同事行と称せ



られ、お参りやご法事の際、法話のエッセンスとしてよくお伝えいたします。

とある法事が終わり、玄関でお見送りをした時のことです。大人の方がご自身の靴を履き、外へお進みの中で、孫世代のお嬢様が祖母の履物を手に、履きやすそうな場所へ揃えている姿がありました。思いやりをすぐ実践に移した彼女の行動も立派でしたし、それを受けたお祖母さまのにこやかな表情が忘れられません。

兎角、歳を重ねますと、気恥ずかしさや照れが邪魔をして、胸の内芽生えた「思いやりの心」にフタをしてしまいがちです。【ココロは見えないけれど心遣いは見える】...アナタの行いで、周りをにこやかにしていけたら最高ですね

◎山門大施食会が行われます

来月、11月16日(水)午後1時半より、慶雲寺施食会(せじきえ)法要が営まれます。

檀信徒各家の先祖供養のこの日、お時間お繰り合わせいただき、お参りのうえお塔婆をお受けください。